

# 妙願寺の御葉付イチヨウ

金 沢 竜

本稿は、加古川市東神吉町升田の妙願寺（住職、岩  
 陸真将氏）境内に生育する御葉付イチヨウについての  
 観察報告である。

昭和31年秋期に、本校（県立加古川西高等学校）生  
 物選択生徒によつて加印地区のイチヨウの分布調査を  
 実施した。その際12月6日に上記境内に於て、偶然に  
 も種子が葉上についている奇形種を発見し、オハツキ  
 イチヨウ *Ginkgo biloba* L. var. *epiphylla* Makino

であることを確認した。

妙願寺は、加古川橋西詰から堤防上を北へ約2500m  
 の升田山（海拔105 m）の山麓にある浄土真宗西本願  
 寺派の大きな寺院で、その境内の鐘つき堂の北、本堂  
 のすぐ西側に問題の御葉付イチヨウが聳えている。

この御葉付イチヨウは、高さ約18m、地上から1m  
 50cmの幹囲は1m87cmである。今から70年余り前に  
 先々代の老僧英存師が、岡山県和気郡日生町日生の西

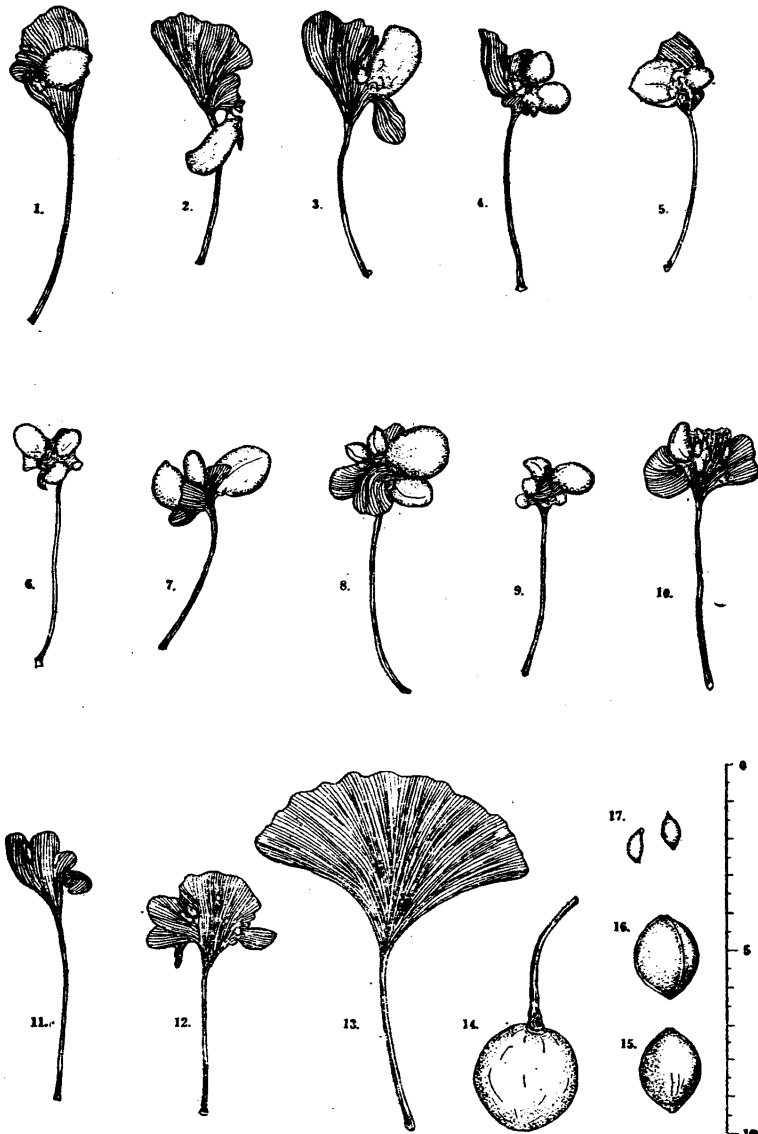
念寺から三稜の銀杏を持ち  
 帰り播種したものと云わ  
 れ、現在では大木となつて  
 生育極めて盛んである。

御葉付イチヨウといつて  
 も、種子がすべて葉上につ  
 いているものではなく、普  
 通の種子の方が御葉付の  
 ものより多いことは而論で  
 ある。これは既に天然記念物  
 に指定されているものにつ  
 いても同様であつて、例え  
 ば山梨県の上沢寺や本国寺  
 の有名な御葉付イチヨウで  
 も、御葉付のものは毎年  
 1000~2000個ぐらいできる  
 程度とのことである。

妙願寺のものでは、普通  
 の銀杏は毎年1斗5升以上  
 も収穫されていたが、御葉  
 付のものは気付かれなかつ  
 たようである。しかし昨年  
 12月樹下の落葉中からで  
 も、御葉付のものを短時間  
 に200個以上も採集できた  
 点から考えると、毎年1000  
 個以上の御葉付のものが  
 できていたことは確実で、今  
 後も引き続き観察したい。

妙願寺の御葉付イチヨウ  
 は、図に示す通り種子、葉  
 とともに変化に富んだ奇形が  
 多く、典型的なものは葉縁

(309ページへ)



227ページより)

に1個の種子がついているものであるが(図の1)、中には種子が著しく長形となつたもの(図の2、3)また種子が2個ついているもの(図の4、5)、3個つくもの(図の6、7)、4個つくもの(図の8)、5個以上つけるもの(図の9)などがある。また種子の1個以外は極めて小さく痕跡的なもの(図の10)など多種多様である。

種子を多くつけるにしたがつて、葉は縮小し種子そのものも普通種(図の14)に比し著しく小形になる。さらに種子をつけない奇形葉も多く見られるが(図の11、12)これも普通葉(図の13)に比べて小形である。成熟した種子の種皮は内外二葉からなり、外種皮は多肉で黄色を呈し悪臭がある。内種皮即ちギンナン(銀杏)は白色で硬く、普通種では2稜のもの(図の15)、3稜のもの(図の16)などがあるが御葉付のもの(図の17)では、稜線もなく小形で丁度ナツミカンの種子を思わせる。

御葉付イチヨウは形態的には雌株の大成葉の縁辺部に孢子嚢ができたもので、原始的な植物の形態を示す。また花軸と葉が共通の基本構造をしていることを

実証するものとして、注目すべき事実である。

昭和32年2月末現在、文化財保護法によつて保護されているイチヨウの天然記念物は全国で26件あるが、このうち御葉付イチヨウは7件である。次にその名称、所在地、指定年月を記してみたい。

1. 早田の御葉付イチヨウ  
山形県西田川郡温海町 昭和26年6月指定
2. 白旗山八幡宮の御葉付イチヨウ  
茨城県水戸市八幡町 昭和4年4月指定
3. 杉森神社の御葉付イチヨウ  
福井県大飯郡高浜町 昭和10年8月指定
4. 上沢寺の御葉付イチヨウ  
山梨県南巨摩郡身延町 昭和4年4月指定
5. 本国寺の御葉付イチヨウ  
山梨県南巨摩郡身延町 昭和4年4月指定
6. 八木沢の御葉付イチヨウ  
山梨県西八代郡大河内村 昭和15年7月指定
7. 了徳寺の御葉付イチヨウ  
滋賀県坂田郡米原町 昭和4年12月指定  
(1957. 7. 3)